

日常会話における割り込みに関する構造的な研究

—— 連用従属節を対象に ——

Structural Study on Phenomenon of Interruption in Daily Conversation

—— Focus on Adverbial Modifier Clause ——

閔 曉 玲*

YAN Xiaoling

(要旨)

日常会話では、会話参加者は単純に「一人ずつ話す」という原則に従って会話を進行させると考えられる。しかし、一人の会話参加者が話しているときでも、他の会話参加者が途中で中断させ、割り込んだりすることが頻繁に起こっている。このような「割り込み」現象に関しては、これまで多くの研究者が日本語教育の立場や言語行動研究からその性質や分類、生じる原因などを解明しているが、構造的な視点から分析したものは見られない。

本稿では、割り込みが起こる際に相対的によく使われる感動詞類を対象とし、「連用従属節の直後」という統語環境において、どのような感動詞類が、どのような位置で、割り込みを起こすのかという問題を、構造的な視点から検証する。その結果、独立度の高い従属節の直後では割り込みが起こりやすい一方、独立度の低い従属節の直後では割り込みが起こりにくいということが分かった。そのため、複文構造においては、割り込みは従属節の独立度に構造的に依存すると言える。

【キーワード】 会話分析、割り込み、割り込みツール、文構造、従属節、独立度

1. はじめに

私たちの日常会話は、会話参加者が話すことと聞くことを交互に繰り返すことによって成立するものである。この参加者が互いに話を交換する過程は、Sacks, Schegloff & Jefferson (1974) では「順番取りシステム」とされ、話者交代研究の基礎となっている。例えば、(1)の会話を見てみる¹。

- (1) 050196I : 漏洩の罪ねhee
050197J : ああ漏洩や、漏洩するわ。はあ。
050198I : はあね、本当に。
050199J : 本当にはあだよ。いや頑張る、オイラ頑張る。
050200I : うん。 うん私もさ、明日、何だっけ。

* 山口大学大学院東アジア研究科 (The Graduate School of East Asian Studies, Yamaguchi University)

- 050201J : うん。
050202I : ええと福岡に、
050203J : うん。
050204I : 日帰りで、
050205J : うん。

ここでは、会話参加者IとJは互いに発話を1つずつ交替して会話を進行させている。

しかし、実際の日常会話では、話し手と聞き手は単純に「一人ずつ話す」という原則に従って進行させるのではなく、一人が話しているときでも他の会話参加者が話し手の発話を途中で中断させ、割り込んだりすることが頻繁に起こっている。例えば、次の通りである。

- (2) 050217J : copy and paste
050218I : copy and paste and ちょっと、編集hee
050219J : それオフレコなやつや、あれheeオフレコなやつやで、
050220I : いやいや、でもデータ収集だから [、] しょうがないよ。
050221J : [うん]、いやこうなんか、結構、=
050222I : うん。
050221J : =難しい、何っていうやろ。雷蔵調べようにも、ネットで引っ張ってくるわけやん。
050222I : うん。
050223J : でもやっぱり大部分でwikiになってしまうよ。
050224I : ああ。 (□は筆者)

ここでは、会話参加者JがIの話している途中で自分の発話を言い始めている。このような会話は、典型的な「割り込み」であり、Sacks, Schegloff & Jefferson(1974) のルールに違反するものである。

このような日常会話における「割り込み」現象に関しては、これまで多くの研究者によって日本語教育の立場や言語行動から性質の解明や分類がなされている。しかし、割り込みが発話のどの位置に起こるのか、どのような統語的な特徴を持つのかなど、いわゆる構造的な視点から分析したものは見られない。したがって、本稿では、割り込みが起こる際に相対的に現れやすい感動詞類を対象とし、「連用従属節の直後」という統語環境において、どのような感動詞類が、どのような従属節の直後に現れるのか、という問題を構造的なアプローチによって解明していく。

2. 先行研究

本節では、割り込みに関する先行研究を振り返る。

まず、藤井桂子(1995: 18)は、「発話権の維持」と「トピックの一致」の2つを分類の基準にしている。また、先行発話に対する割り込み発話の内容と発話権の移動から、先行発話と重ねた

発話の関係を「調和系」、「調整系」と「独立系」の3種類に分類している²。さらに、会話の重なりを【表1】のように分類している。

【表1】 重ねた発話の分類（藤井桂子1995：22）

発話権 \ トピック	一致	方向などが異なる	一致しない
先行話者の発話権 維持	①調和系 ○同意・同感 ○理解・承認 ○驚き・感心 ○ほめ ○応答	②調整系 ○確認 ○訂正・情報追加 ○関連質問	○合図 ○独り言表現 ○聞き取り
先行話者の発話権 移動	○総括	③独立系 ○継続・戻し ○展開 *先行話者の自尊心を脅かす発話	○新トピック

藤井桂子（1998：49）は、男性どうし、女性どうしの会話に生じる「割り込み」現象の分析から、男女のインターアクションのスタイルの違いを解明している。まず、会話における割り込みの定義を次のように述べている。

会話における「割り込み (interruption)」とは、会話分析の先駆的な研究であるSacks他（1974）が、会話の原則として説明する「一人ずつ話す」というシステムに反して、相手の発話の途中で他の参加者が、発話（単に聞いていることを示す短いあいづちを除く）を開始する現象である。

生駒幸子（1996）は、日常生活に現れる「発話の重なり」現象を取り上げ、親しい女性どうしの会話を資料としてその会話に現れた発話の重なりを位置と性質の観点から分類した。その起こる位置と性質の観点から、次の【表2】のように分類している。

【表2】に示すように、生駒幸子（1996:190）は、「割り込みが起こる位置が先行発話の途中で、もう一人の会話参加者が割り込んだことによって起こる発話の重なりである」と考えている。さ

【表2】 発話の重なる分類（生駒幸子1996：187）

位置 \ 性質	I 発話の頭と頭が重なる場合	II 先行発話の末尾と重なる場合	III 先行発話の途中で重なる場合
① 偶発的	同時スタート	オプションな言葉の付加	TRPの誤認 ³
② 予測的	妨害目的による同時スタート	終わりの予測	割り込み 1 内容予測 2 自己の発話の優先 3 妨害目的 4 副次的ターン
③ 無意識的	ターンを要求しない発話 1 あいづち 2 独り言	ターンを要求しない発話 1 あいづち 2 独り言	ターンを要求しない発話 1 あいづち 2 独り言

らに割り込みの目的, 理由によって下位分類し, 割り込みの性質を次のようにまとめている。

- 1 内容予測：先行発話の途中で, 続きの発話の内容が予測できたもう一人の会話参加者が, 発話の終わりを待たずに, 先行発話への反応を示すために割り込む場合。
- 2 自己の発話の優先：先行発話の途中にもかかわらず, もう一人の会話参加者が, 自らの発話を優先させて行おうとして, 割り込む場合。
- 3 妨害目的：先行発話を妨害する目的で割り込む場合。
- 4 副次的ターン：先行発話の途中で, 一時的にターンを取るために, 割り込む場合。

(生駒幸子 (1996: 190-191))

萩原稚佳子 (2002) は, 日常会話における省略の中でも文末省略を「言いさし」と呼ぶ。また, 日本人によるインタビュー中に見られる言いさしとその対応の中で, とくに話者の意図ではなく行われた言いさし, 及び割り込みの相互作用に注目し, その実態を分析している。割り込みの機能については, 割り込むことでターンを取ったために生じた言いさしの場合において, 割り込みの機能を次のように述べている。

- ① 会話の流れに関係する割り込み (話題を変えるための割り込みと話題を継続するための割り込み) ;
- ② 第一話者の話の内容に誘発された割り込み (反論のための割り込みと意見述べのための割り込み) ;
- ③ 第一話者のターン維持の間で相手に同調する割り込み (強い感情による割り込みと相手の話を強調する割り込み) ;
- ④ 時間節約の割り込み (思い付きの割り込み, 質問内容がわかった時点での割り込みと疑問生起による割り込み) ;
- ⑤ 第一話者の内容が引き起こし割り込み (話者を助けるための割り込みと訂正のための割り込み)

(萩原稚佳子 (2002:65-73))

長谷川紀子 (2005: 91) は, 割り込み発話を「話し手が話し続けている時に聞き手が相づち以外の発話をする事」と定義し, 日本語学習者の行う割り込み発話の分類や生じた原因について分析している。まずは, 先行発話に対し, どのような位置で割り込み発話をしているかについて, 次の4つの場合に分けている。

- ① 相手のターン末尾：先行発話の実質的な内容が終了している部分で割り込み発話を開始する場合。
- ② 相手ターン開始直後：先行発話が始まった直後に割り込み発話を開始する場合。
- ③ 先行発話途中の区切れの箇所：先行発話の実質的な内容が終了しておらず, 先行発話の言葉の区切りや息継ぎによってできた短いポーズの部分で割り込む場合。

- ④ 先行発話途中の区切れがない箇所：先行発話の実質的な内容が終了しておらず、明らかに先行発話話者が発話している最中に割り込んでいる場合。

(長谷川紀子 (2005 : 103))

また、藤井桂子 (1995) の枠組みを参考にし、割り込み発話の内容を次の【表3】のように分類している。

【表3】 割り込み発話の内容 (長谷川紀子 2005 : 100)

調和系		調整系				独立系	
フィード バック	完結	確認	関連質問	情報追加・ 訂正	先取り応答	継続・戻し	展開

最後に、割り込み発話が起こる原因については、非言語行動も併せて観察し、次のように分けている。

- ① 相手の話そうとしていることを示すシグナルを認知できない。
- ② 会話の流れの予測の正しくできないため、先行発話が途中であるのに終了したと判断してしまう (TRPの誤認)。
- ③ 自己の発話を優先させる。

(長谷川紀子 (2005 : 97))

その中で、①と②は非意図的に割り込むが、③は意図的な割り込みであるとしている。

李孝謹 (2011) は、現話者の発話を途中で中断させる聞き手からの割り込み発話に焦点を当て、その特徴から割り込みが生じる要因、またその割り込みによって生じた発話順番システムの問題が起きた場合における会話参加者の対処方法について分析した。まず、割り込みが生じる原因を次のように述べている。

- ① 発話開始の表明への困難による割り込み。
- ② 発話終了の予測の困難さによる割り込み。
- ③ 聞き手の強い発話開始の表明による割り込み。

(李孝謹 (2011 : 5-8))

また、聞き手が意識的に行う割り込みについて、発話順番を取り戻すための割り込みを「会話参加者全員にアピールする割り込み」と「発話順番をめぐる相手に直接交渉する割り込み」とに分けている (cf. 李孝謹2011 : 9-12)。

以上から分かるように、日常会話における割り込みに関する研究では、これまで多くの研究者によって、日本語教育の立場や言語行動研究から性質の解明や分類がなされている。その上、それらの分析は意味や機能に焦点を当てるものばかりであった。しかし、会話参加者が割り込むためにどの要素 (例えば感動詞類や笑いなど) を用いるのか、また割り込みが発話のどの位置に起こるのか、どのような統語的な特徴を持つのか、といったいわゆる構造的な視点から分析したも

のは見られない。

金田純平（2015）は、日本語の文における感動詞、とくに文末に現れる感動詞に注目し、終助詞と比較しながら感動詞が文において果たす役割について再検討した。日本語の感動詞の文末用法の談話的機能について、「感情感動詞」、「呼びかけ詞」、「応答詞」の伝統的な3分類に分け、それぞれに論じている。

まず、感情感動詞の特徴を解明する際、次のように解説している。

感動詞は、前の発言内容や文脈を継承せずに断絶するものであるという特徴が浮かびあがる。これは、Fraser(1999)による談話標識の定義の1つである、直前または直後の発話に関連付け手続きと対立するものであり、むしろ談話の流れに割り込み、直前の談話文脈を断絶し、新たな発話にするものと言い換えられる。

（金田純平（2015：20-21））

また、金田純平（2015：21-22）は、呼びかけ詞を分析する際、「呼びかけ詞自体は、文頭に現れた場合、驚きの感情感動詞と同じく談話への割り込みにもなる。」と述べている。

近年、自然談話における感動詞類の本質と機能を分析する研究が進んできた。多くの研究者（森山卓郎（1989）、定延利之・田窪行則（1995）、田窪行則・金水敏（1997）、富樫純一（2001）、塚原千賀子（2001）、山根智恵（2002）、中島悦子（2011）など）は言語運用面からのアプローチで分析し、感動詞類をフィルター、相づち、応答詞、心的操作標識として研究されている。しかし、感動詞類が割り込みの機能を持つかどうかに関しては、あまり論じていない。金田純平（2015）は感動詞類が割り込みの機能を持っていると指摘しているが、割り込みの機能を持つ感動詞類がどのような統語的な特徴を持つのかという問題には至っていない。

3. 本稿での考え方

割り込みの定義は、今までに多くの研究者によりなされているが（藤井桂子（1998）、生駒幸子（1996）、深澤のぞみ（1999）、長谷川紀子（2005）等）、その定義の内容は研究視点により様々である。特に、割り込みが起こったときに、割り込まれた側の発話が中断されたのかどうか、話者交代が起こるのかどうか、という問題が中心課題となっている。しかし、そこには様々な基準が設定されているため、複数の基準がどのように相互作用するのか明瞭になっていない。本稿では、複数の基準を立てるのではなく、構造的な観点のみから説明することを試みる。また、日常会話において、会話参加者が割り込みのためには、何らかの要素を用いなければならない。従って、「割り込み」現象を次のように定義する。

- (3) 割り込み：ある会話参加者が発話をしている途中で、他の会話参加者が割り込みツールを用いて、新たな命題を含む発話を発すること。

ここで重要なことは、2点ある。1点目は、割り込むためには「割り込みツール」を用いるとい

うことである。「割り込みツール」は次のように定義する。

- (4) 割り込みツール：割り込みをするために、発話者が発する最初の要素。

割り込みツールとなり得るものには、感動詞類、接続詞、指示詞のような言語形式だけではなく、笑いなどの非言語形式もあると考えられる。本稿は、「割り込み」現象を構造的な観点から記述することが可能かという点を検証することに主たる目的があるため、出現頻度が相対的に高い感動詞類に絞って記述することにする⁴。

2点目は、割り込んだ後の発話には、必ず命題を含んでいるということである。従って、割り込みツールだけで終了した発話、例えば応答詞だけの発話などは、割り込みとは判断しない。割り込む側の発話は「割り込みツール+命題」で構成されているため、発話権は割り込む側が取っていることになる。しかし、割り込みが起こった直後には、割り込まれた側の発話が継続している。

また、本稿で対象とする連用従属節については、南不二男（1974）の文階層モデルを利用する。南不二男（1974）は、従属節（南不二男（1974）では「従属句」と呼ぶ）の内部における要素の現れ方に基づいて、従属節を以下のように分類している。

- ① Aの類：～ナガラ（継続）
 ～テの形の中のあるもの。
 ～ツツの形の中のあるもの。
 ～動詞の連用形を重ねるもの。
 ～形容詞・形容動詞の連用形で終わるものうちのあるもの。
- ② Bの類：～ノデ。そのほか、～タラ、～テモ、～ト、～なら、～ノニ、～バの形のものがある。
 <条件的な意味を表わすもの>
 ～テ<理由・原因>
 ～ナガラ<逆接>。
 ～ツツ<逆接>
 ～テ<継起的または並列的な動作・状態>
 ～ズニ、～ナイデ<打消し>
- ③ Cの類：～ガ
 ～カラ
 ～ケレド（ケレドモ、ケドモ、ケド）
 ～テの形のものや連用形で終るもの

（南不二男（1974：121-124））

この分類において、内部に現れる要素は、A類からC類に順に多様になる。特に、従属節相互の関連に関しては、A類従属節にB類・C類従属節が生起できないことと、B類従属節の中にC類従属節が生起できないことが文階層から分かる。また、次のようなものをD類にしている。

- ④ 述語的部分。命令（肯定または否定＝禁止）の形，その他，断定や疑問などの意味を持った終助詞やいろいろの間投助詞のついた形など。
 述語的部分以外の要素。相手に対する呼びかけのことは，いわゆる接続詞（おもに文頭に出て来るもの）の類，間投詞の類，挿入句など。

（南不二男（1974：134））

また，南不二男（1974：134）は「すべての述語文はこれらの四段階を経てできるもの」と考えている。

以上より，南不二男（1974）は，文階層モデルを構造的（構文的）な分析に基づいて構築していることが分かる。しかも，そのモデルの中では，文の陳述性・独立性の尺度を提唱している。連用従属節については，三尾砂（1942）や三上章（1953, 1972）から始まる研究が多々あるが，南不二男（1974）に至って非常に厳密化されたと言えるだろう。従って，本稿では，南不二男（1974）の文階層モデルを採用することにする。

4. 調査要領

本稿では，日常会話における割り込みについて検証するため，若者の自由談話（会話）による調査を実施した。

4.1. 調査方法

日本語母語話者の会話7組を分析対象とした。女性で同年代の面識のある日本語母語話者2名を1グループとし，それぞれ30分間自由に会話をしてもらって録音した。

【表4】 インフォーマント等の情報

会話調査	被験者の氏名	被験者の性別	被験者の氏名	被験者の性別	調査実施日
会話01	A	女性	B	女性	2015年04月28日
会話02	C	女性	D	女性	2015年10月02日
会話03	E	女性	F	女性	2015年10月14日
会話04	G	女性	H	女性	2015年10月15日
会話05	I	女性	J	女性	2015年10月15日
会話06	K	女性	L	女性	2015年10月28日
会話07	M	女性	N	女性	2015年10月29日

被験者には調査を依頼する際に，30分間自由に会話をし，その様子をレコーダー（SONY ICD-UX512）で録音する旨を伝えたが，公正なデータを収集のため，実験調査の目的は全ての調査が終了するまで知らせないこととした。

入室直後は緊張や会話の録音に対するの恥ずかしさを示す人もいるため，入室後すぐにはレコーダーの開始ボタンを押さないようにした。少し時間を置いたのち，調査を開始する旨を告げた後に，録音を開始した。また，調査中に被験者に実験者（筆者）のことを気にせず会話をしてもらうために，録音の開始後，実験者は速やかに部屋から退出した。

調査時間は，30分間である。被験者に対して残り時間の提示などは行わず，30分間経過した時

点で、被験者が停止ボタンを押した。こうして、1グループにつき30分間の録音を7グループ分、計210分間のデータを得ることができた。

4.2. データについて

本稿で扱うデータは、自由談話調査から得られたものである。

調査目的が割り込みツールとなる感動詞類を対象としたものであるため、机を叩く音や、鼻で笑うなどの行為による音声は、調査目的の対象からは除外した。

発話内容の文字おこしは、「録音・録画データの共通転記号」（cf. 申田秀也・定延利之・伝康晴編2005：xiv-xxi）を参考に行った。

本稿では、データを以下のように表記する。

(5) 通し番号 被験者の名前：発話内容

例：010004 B ：電源の入れ方が分からんみたいな

最初の2桁の数字「01」は会話調査を示す番号、次の3桁「0004」は発話の通し番号、最後の桁「B」は被験者の名前である。また、コロンの右側にある「電源の入れ方が分からんみたいな」という部分は被験者Bが発する発話内容である。

また、データ中の記号類については以下のようにする。

- [… 同時的重なり。[は二人以上の発話や音声が重なり始めた時点を示す。
- = … その前後に感知可能な間隙がまったくないことを示す。
- (.) … 丸括弧内のドットは、その位置にごくわずかの感知可能な間隙（おおむね0.1秒前後）があることを示す。
- (数字) … 丸括弧内の数値は、その位置にその秒数の間隙があることを示す。
- () … まったく聞き取れない発話の内容を示す。
- haha /hee … 笑いなどを示す。
- ! … 感嘆を表す。
- ? … 疑問を表す。
- … … 発話の言いよどみや発話が中断されていることを示す。
- 『 』 … 本名や映画名を示す。
- … 分析対象語
- … 割り込みが起こる直前の発話を示す。
- ～ … 分析対象とする感動詞類の直後の発話を示す。

5. 分析

本節では、会話01～会話07に現れる割り込みを観察する。その際、南不二男（1974）による文階層モデルを参考にして、連用従属節をA類、B類、C類、D類の4種類に分ける。さらに、割り

込みツール(感動詞類)の出現位置によって、割り込みの生起環境と文構造との関連性を考察する。

以下では、割り込みのデータを挙げながら、詳しく見てみよう。

5.1. 従属節A類

今回実施した会話調査では、従属節A類の直後に割り込みツール(感動詞類)は1語も現れなかった。従って、従属節A類の直後には割り込みが起こらないことが観察された。

5.2. 従属節B類

従属節B類の直後には、割り込みツール(感動詞類)が3語現れている。以下のように示す。

(6) ああ, あ, え

一方、従属節の形式によって分類すると、割り込みが起こる位置は次のようにまとめられる。

- (7) a. 「～たら」の直後
- b. 「～て」の直後
- c. 「～ば」の直後

そこで、以下では(7)の各環境を観察していく。

5.2.1. 「～たら」の直後

「～たら」という従属節の直後で割り込みが起こることがある。次のデータを見てみよう。

- (8) 020667D: 2人って。
- 020668C: 2人って30分。
- 020669D: なかなかよね。
- 020670C: ご飯食べてたりとかしたら [, 結構…
- 020671D: [ああ], ご飯食べてたら [そんなもんか。
- 020672C: [あっという間けど,
- 020673D: うん。

(8)の020670Cの発話では、従属節「ご飯食べてたりとかしたら」の「たら」の直後で、Dが感動詞類の「ああ」を用いてCの発話を中断させている。さらに「ご飯食べてたらそんなもんか。」という新たな発話を用いて割り込んでいる。

また、次のデータを見てみよう。

- (9) 030227E: やっちゃん?
- 030228F: やっちゃん? みたい [な。

- 030229E : [高橋先生は梅酒を持ってきたら [別にいい…]=
 030230F : [あ]やっちゃ=
- 030229E : =いいんじゃない。
 030230F : =うみたい、やっちゃうみたい、とんだ、とんだサンタさんです [よ。
 030231E : [あ
 本当だよ。
 030232F : とん…

(9) の030229Eの発話では、従属節「高橋先生は梅酒を持ってきたら」の「たら」の直後で、Fが感動詞類の「あ」を用いてEの発話を中断させている。さらに「やっちゃうみたい、やっちゃうみたい、とんだ、とんだサンタさんですよ。」という新たな発話を用いて割り込んでいる。

以上より、従属節の「～たら」の直後に割り込みツール（感動詞類）の「ああ、あ」が現れるため、従属節B類の直後で割り込みが起こっていると考えられる。

5.2.2. 「～て」の直後

「～て」という従属節の直後で割り込みが起こることがある。次のデータを見てみよう。

- (10) 050132J : とりあえず生活リズム [からね。
 050133I : [うん。じゃ6時に起きようか。
 050134J : 早い！
 050135I&J : hee
 050136J : 早い！
 050137I : 12時までに寝て […
 050138J : [あ]だってバイトが、10まであるけ [、私。
 050139I : [あそうかそうか。
 050140J : そうそう。

(10) の050137Iの発話では、従属節「12時まで

5.2.3. 「～ば」の直後

従属節の「～ば」の直後で割り込みが起こることがある。次のデータが挙げられる。

- (11) 030452E : 結局
 030453F : 結局かあ。ええでも、ええでも、そんなに、なんか労力かける
[こともないような気がしますなんか、やもういい、こっちは

030454E: [だよね。だよねだよね。]

030453F: =た時の「ついでって考えれば」 [す…

030454E: [うん。] 「え」じゃあさ、じゃんちきでいいじゃんhee

030455F: ええちょっと待ってくださいよ。じゃんちき？

(11) の030453Fの発話では、従属節「こっち来た時のついでって考えれば」の「ば」の直後で、Eが感動詞類の「え」を用いてFの発話を中断させている。さらに「じゃあさ、じゃんちきでいいじゃん。」という新たな発話を用いて割り込んでいる。従属節の「～ば」が従属節B類に属するため、従属節B類の直後で割り込みが起こっていると考えられる。

つまり、割り込みツール（感動詞類）の「ああ、あ、え」が「～たら」、「～て」、「～ば」という従属節の直後に現れていることが観察された。即ち、ある会話参加者が発話をしている途中で、もう一人の会話参加者がそれらの割り込みツール（感動詞類）を用いて、その話を中断させている。さらに、新たな命題を含む発話を発している。「～たら」、「～て」、「～ば」という従属節が南不二男（1974）の文階層モデルによると従属節B類に分類されているため、従属節B類の直後で割り込みが起こっていると考えられる。

5.3. 従属節C類

従属節C類の直後には、割り込みツール（感動詞類）が7語現れている。次のように示す。

(12) ああ、ああああ、うん、うん、え、あのう、おお

また、従属節の形式によって分類すると、割り込みが起こる位置を次のようにまとめられる。

- (13) a. 「～から」の直後
b. 「～し」の直後
c. 「～けど」の直後

そこで、以下では（13）の各環境を観察していく。

5.3.1. 「～から」の直後

従属節の「～から」の直後で割り込みが起こることがある。次のデータを見てみよう。

(14) 020553D: 分かる、それ。うん、分かる分かる。私結構その影響受けやすいからさ、

020554C: うんうん。

020555D: なんか浦上先生の話よったら、なんか、口調が関西弁に行くんだから
ら「イントネーションが可笑しくなったりするから、

020556C: [ああ]、そうだね。あでも関西弁は移るのがしょうがないと思うよ。=

020557D: =マジか。heeやっぱそう。

(14) の020555Dの発話では、従属節「口調が関西弁に行くんだから」の「から」の直後で、Cが感動詞類の「ああ」を用いてDの発話を中断させている。さらに「そうだね。あでも関西弁は移るのがしょうがないと思うよ。」という新たな発話を用いて割り込んでいる。

また、次のデータを見てみよう。

(15) 060692L： あらこれ見たい、あ見よう、見 [っていうのはあるんだけど。

060693K： [ああ。 いやう
ち、でもなんか、2時間で終わらないとなんか、早く終わってよって
なっちゃうから [さ、

060694L： [ああああ結局アニメだったら何だろ、区切りができるけえさ。

060695K： あそうか。

060696L： そう。

(15) の060693Kの発話では、従属節「早く終わってよってなっちゃうから」の「から」の直後で、Lが感動詞類の「ああああ」を用いて Kの発話を中断させている。さらに「結局アニメだったら何だろ、区切りができるけえさ。」という新たな発話を用いて割り込んでいる。

また、次のデータを見てみよう。

(16) 050217J： copy and paste

050218I： copy and paste and ちょっと、編集hee

050219J： それオフレコなやつや、あれheeオフレコなやつやで、

050220I： いやいや、でもデータ収集だから [、しょうがないよ。

050221J： [うん]、いやこうなんか、結構、難しい、
何っていうやろ。雷蔵調べようにも、ネットで=

050222I： うん。

050221J： =引っ張ってくるわけやん。

050222I： うん。

050223J： でもやっぱり大部分でwikiになってしまうよ。

050224I： ああ。

(16) の050220Iの発話では、従属節「データ収集だから」の「から」の直後で、Jが感動詞類の「うん」を用いてIの発話を中断させている。さらに「いやこうなんか、結構、難しい、何っていうやろ。雷蔵調べようにも、ネットで引っ張ってくるわけやん。」という新たな発話を用いて割り込んでいる。

また、ほかの感動詞類も現れている。次のデータを見てみよう。

(17) 060094L： ちょっと読んでみよう。

060095K: そうですね。

060096L: 本なあ、そうだよな。まあ全然読んだことない、作家は多すぎるから [な。

060097K: [うん], でも川端康成も読んでみないといけないな。

060098L: 川端康 […

060099K: [でもな、多分読んだことないと思うんだけど、1個も。

(17) の060096Lの発話では、「作家は多すぎるから」の「から」の直後で、Kは感動詞類の「うん」を用いてLの発話を中断させている。さらに「でも川端康成も読んでみないといけないな。」という新たな発話を用いて割り込んでいる。

また、次のデータを見てみよう。

(18) 050493I&J: hee

050494I: お帰り [hee

050495J: [そう、その期間の電気代と水道代は [もう、全然払うか=

050496I: [うん。

050495J: =ら [、食費とか。

050496I: [え絶対だって、なんだっけ、3万だっけ? [条件、あれで行=

050497J: [うん。

050496I: =け、行け [るよねhee

050497J: [行けるよ。3万どころか、2万ぐらいあれば、2万あれば、よっぽど裕福な暮らしができる [ふじん家。

050498I: hee [それ思うheeいや2万も
だって要らんやろだって、何人いるけ、5人6人。

(18) の050495Jの発話では、従属節「全然払うから」の「から」の直後で、Iが感動詞類の「え」を用いてJの発話を中断させている。さらに「絶対だって、なんだっけ、3万だっけ? 条件、あれで行け、行けるよね。」という新たな発話を用いて割り込んでいる。

以上より、従属節の「～から」の直後に割り込みツール（感動詞類）の「ああ、ああああ、うん、うん、え」が現れることがある。

5.3.2. 「～し」の直後

「～し」という従属節の直後で割り込みが起こることがある。次のデータを見てみよう。

(19) 030243E: 食べたい分だけね、頼ん [だらよかったのにね、うん。

030244F: [頼めばいいのに、なんかみんなが、食べないから
たいな、

030245E: うん。

- 030246F: いやいや、私は関係ないし [, とか…
 030247E: あのうね、そこだけ女子ぶってもうだめだよhee
 030248F: ああちょ、みたいな。
 030249E: そこ、そこは戦争。

(19) の030246Fの発話では、従属節「私は関係ないし」の「し」の直後で、Eが感動詞類の「あのう」を用いてFの発話を中断させている。さらに「そこだけ女子ぶってもうだめだよ。」という新たな発話を用いて割り込んでいる。

以上より、従属節の「～し」の直後に割り込みツール（感動詞類）の「あのう」が現れることがある。

5.3.3. 「～けど」の直後

「～けど」という従属節の直後に割り込みが起こることがある。次のデータを見てみよう。

- (20) 020262C: 今までは買い物親にも任せた、ってたから、実家暮らしのときは、
 020263D: うんん。
 020264C: なんか、その買う権限がなかったけど [, お肉とかは、
 020265D: うん、まあ今はもう [自分=
 020266C: [そ=
 020265D: =で買うから
 020266C: =う、今は自分で買えるか。
 020267D: うん。

(20) の020264Cの発話では、従属節「その買う権限がなかったけど」の「けど」の直後で、Dが感動詞類の「うん」を用いてCの発話を中断させている。さらに「まあ今はもう自分で買うから、」という新たな発話を用いて割り込んでいる。

また、次のデータを見てみよう。

- (21) 070351N: どうしたん？
 070352M: 結局行かんかったけど [暇だって。
 070353N: おおよかったやん、よかったよかった、一步一步hee
 070354M: ー [歩一步一步hee [暇や、いやでもね、
 070355N: [hee [いやそれこそさっきの友達を増やすっていう。
 070356M: そうそうそう、離れちゃう =
 070357N: =友達増やすっていうか、維持っていうかhee

(21) の070352Mの発話では、従属節「結局行かんかったけど」の「けど」の直後で、Nが感動詞類の「おお」を用いてMの発話を中断させている。さらに「よかったやん、よかったよかつ

た、一歩一歩」という新たな発話を用いて割り込んでいる。

以上より、従属節の「～けど」の直後に割り込みツール（感動詞類）の「うん、おお」が現れることがある。

つまり、割り込みツール（感動詞類）の「ああ、ああああ、うん、うん、え、あのう、おお」が「～から」、「～し」、「～けど」という従属節の直後に現れていることが観察された。即ち、ある会話参加者が発話をしている途中で、もう一人の会話参加者がそれらの割り込みツール（感動詞類）を用いて、その話を中断させている。さらに、新たな命題を含む発話を発している。「～から」、「～し」、「～けど」という従属節が南不二男（1974）の文階層モデルによると従属節C類に分類されているため、従属節C類の直後で割り込みが起こっていると考えられる。

5.4. 従属節D類

従属節D類の直後には、割り込みツールとなる感動詞類が9語現れることがある。次のように示す。

(22) ああ、あっ、そうそうそう、うん、うん、えっ、ねえ、いや、いやいやいや

まず、次のデータを見てみよう。

(23) 020333D： そうなんよ。[やけえ

020334C： [() から怖いね。

020335D： そう、やっ、やめなさいってよく言われて、自分でも、いうのはいけないって
分かってるんだけど、でも面倒くさいだもん [ってな=

020336C： [ああ, そ=

020335D： = ちゃうよね。

020336C： = れでも食べるのも面倒くさいかな ちゃう [んだ。

020337D： [そう、何もかも面倒くさくなっ

ちゃう=

020338C： =なるほどね。

020339D： そう。

(24) 020733C： なんかも、降って頑張って、鉄の、鉄棒を [寄せて、あと良いつ=

020734D： [ん。うん。

020733C： =しよで回るって、腹筋と腕の力でもあるんよね、あれ。足じゃ=

020734D： うん。 うん。

020733C： =ないよね。

020734D： そうだね、ただ勢いも若干あるけど、

020735C： うん。 うん。

020736D： あでも何なんだろう。なんかさ、こうさ、坂みたいなの、でででで

で [ってあるさ。あれをさ、だだだだって行けるやつとかあるじゃん。

020737C: [ああ]、あるよ。踏み切りでしょう？ あ
るね。

020738D: ああいうのがあると何とか行けそうな気がするけど、だが一回まず自力できたら、イメージって付くんだと思うんだよね。

以上の2つのデータとも、引用節の直後で、感動詞類の「ああ」による割り込みが現れている。(23)の020335Dの発話では、「面倒くさいだもん」という引用節の直後で、Cが感動詞類の「ああ」を用いてDの発話を中断させている。さらに「それでも食べるのも面倒くさいかなっちゃうんだ。」という新たな発話を用いて割り込んでいる。(24)の020736Dの発話では、「坂みたいな、ででで」という引用節の直後で、Cが感動詞類の「ああ」を用いてDの発話を中断させている⁷。さらに「あるよ。踏み切りでしょう？」という新たな発話を用いて割り込んでいる。

また、次のデータを見てみよう。

(25) 020698D: いつも体育とかでもさ、後ろの方だからさ、できない組に行く、分類されてるパティーンだったね。むしろなんかさ、みんなできた人から抜けてって、最後までできんからさ、ビリでやってる。

020699C: へえええ。

020700D: 逆上がりできないよ私。

020701C: 逆？あでも、うちも今あれやれって言ってできない [と思う。

020702D: [あつ]今、うん、だけど、
小学校のときだと、鉄棒あるじゃん。

020703C: うん。

020704D: 鉄棒で、

020705C: うん。

(25)の020701Cの発話では、引用節「うちも今あれやれって言ってできない」の直後で、Dが感動詞類の「あつ」を用いてCの発話を中断させている。さらに「今、うん、だけど、小学校のときだと、鉄棒あるじゃん。」という新たな発話を用いて割り込んでいる⁸。

また、次のデータを見てみよう。

(26) 070113M: その時点については、もう、ねえ [ええ。

070114N: うん。 [どうしようもないところもある。

070115M: 黙殺っていうかも、それは違うって言われたらもう、それは違う =

070116N: うんうん。

070115M: = [ってことなっちゃうしねえ。

070116N: [そうそう]うんうん、[もう先生のこと関係ね。

070117M: [だからこそまあ、教師の言い分とか =

070118N : うん。
070117M : =意見っていうのはすごい力 [を持ってるっていうのはそこなんだ=
070118N : [うんん。
070117M : =ろうし。
070118N : うんん。

(26) の070115Mの発話では、引用節「それは違うって言われたらもう、それは違う」の直後で、Nが感動詞類の「そう」を3回繰り返して、いわゆる「そうそうそう」を用いてMの発話を中断させている。さらに「うんうん、もう先生のこと関係ね。」という新たな発話を用いて割り込んでいる。

また、次のデータを見てみよう。

(27) 070702M : そう, i, iTunes便利。
070703N : うん。
(0.2)
070704M : うんまあやっぱそんな感じなんだろうねえええ, iphoneなあ, =
070705N : うん。
070704M : =うちの妹とかiphoneで, お母さんがスマホ私もスマホ [, =
070705N : うん。 [うん]=
070704M : =っていう感じやよね。
070705N : =んAndroidだよね。
070706M : あそうAndroid, Android。
070707N : うん, Android, Android。
070708M : Android, Android。 heee

(27) の070704Mの発話では、引用節「うちの妹とかiphoneで、お母さんがスマホ私もスマホ」の直後で、Nが感動詞類の「うん」の語尾を伸ばし、いわゆる「うんん」を用いてMの発話を中断させている。さらに「Androidだよね。」という新たな発話を用いて割り込んでいる。

また、次のデータを見てみよう。

(28) 030359E : 空いてる？
030360F : えっ？ hee
030361E : えって hee
030362F : えっ,
030363E : すごいガチでえっ [って言われた。
030364F : [えっ]? えっ, 空いてるんじゃないですか。サビカン。
030365E : 5時ぐらいからじゃない? [夕食って。
030366F : [あ5時, あまま, 5, 5, [4, 4時に=

- 030367E : [あばばば。
 030366F : =行ったらちょっと、はい行くよ！みたいな、はい準備してみ=
 030367E : はい車みたいな。
 030366F : =たいな、はい3分で仕度みたいな感じになるとかなん [です。
 030367E : [えっえっえっってな
 るやつや。

(28) の030363Eの発話では、引用節「えっ」の直後で、Fが感動詞類の「えっ」を用いてEの発話を中断させている。さらに「えっ、空いてるんじゃないですか。サビカン。」という新たな発話を用いて割り込んでいる。

また、次のデータを見てみよう。

- (29) 040096G : 明日来なかったら諦めよう。
 040097H : よし、そうする。ハー、フー、フー、フ [ースフース。
 040098G : [hee
 040099H : 働いてるわ。いいね。やりたい仕事もない。
 040100G : 分かる、なんか、(0.3) 就活しようときに、うんこんなに頑張っ
てまあやりたいかって言われるとそんなに頑張る、そうでもない
な [と思った。
 040101H : [ねえ]、志望動機がさ、どうしてもさ、全部さ、会社によって=
 040102G : うん。
 040101H : =異なるじゃん。
 040102G : うん。
 040103H : それをね、書くのね、私ね、3時間ぐらいかかるやん。
 040104G : あでもさ、それを、分かるわ。

(29) の040100Gの発話では、引用節「就活しようときに、うんこんなに頑張っ
 てまあやりたいかって言われるとそんなに頑張る、そうでもないな」の直後で、Hが感動詞類の「ねえ」を用
 いてGの発話を中断させている。さらに「志望動機がさ、どうしてもさ、全部さ、会社によって
 異なるじゃん。」という新たな発話を用いて割り込んでいる。

また、次のデータを見てみよう。

- (30) 050293J : [県外やけhee
 050294I : [やば、やば、やば。
 050295J : 送ってもらってる今、やった [とって。
 050296I : [いや] 送料がばかにならないもん、資料は。
 050297J : そうやけ、そうなんよ。
 050298I : [本体はね、

050299J: [アマゾンとかで、中古買うと、送料かかるやん。

(30) の050295Jの発話では、引用節「やった」の直後で、Iが感動詞類の「いや」を用いてJの発話を中断させている。さらに「送料がばかにならないもん、資料は。」という新たな発話を用いて割り込んでいる。

また、次のデータを見てみよう。

(31) 060179L: うん、本に関しはそれはある [ね。

060180K: [本当はそれだよ。

060181L: 本な、そう本もやけどね、映画もなんか、全然見てないな [と思う。

060182K: [いやいやいや]

映画に関して「ゆったら、ちょっと私話止まらなくなっ =

060183L: [haa

060182K: = て2時間「ぐらい喋るよ。

060183L: [haa

060184K: 映画でしょう? =

060185L: = 映画なあ。

(31) の060181Lの発話では、引用節「本な、そう本もやけどね、映画もなんか、全然見てないな」の直後で、Kが感動詞類の「いや」を3回繰り返し、いわゆる「いやいやいや」を用いてLの発話を中断させている。さらに「映画に関してゆったら、ちょっと私話止まらなくなっ2時間ぐらい喋るよ。」という新たな発話を用いて割り込んでいる。

また、次のデータを見てみよう。

(32) 060281L: その、あそこら辺の、『AKIRA』もちょっと気になっ、『AKIRA』は
[全然違うけ。

060282K: [あ『AKIRA』なんか、気になるうち、『AKIRA』って誰だっけ、分からない。
で結構前だよね =

060283L: = 『AKIRA』は、まず作家さんがだれだったか [覚えてない。

060284K: [うん覚えてない、なんかで
もさ、話題になるっていうか。

060285L: うん。

(32) の060283Lの発話では、引用節「作家さんがだれだったか」の直後で、Kが感動詞類の「うん」を用いてLの発話を中断させている。さらに「覚えてない、なんかでもさ、話題になるっていうか。」という新たな発話を用いて割り込んでいる。「～か」を含む従属節には様々な文成分が現れうるが、南不二男（1974）の文階層モデルによると従属節D類に分類される。したがって、従属節D類の直後で割り込みが起こっていると考えられる。

以上より、割り込みツール（感動詞類）の「ああ、あっ、そうそうそう、うん、うん、えっ、ねえ、いや、いやいやいや」が、引用節の直後と従属節の「～か」の直後に現れていることが分かる。これらの従属節は従属節D類に分類されるため、従属節D類の直後に割り込みが起こっていると考えられる。

6. まとめ

本節では、会話01～会話07の中で、連用従属節の直後に現れる割り込みツール（感動詞類）をまとめる。【表5】のようになる。

【表5】から、まず従属節A類の直後に割り込みツール（感動詞類）が1語も現れないことが分かる。また、従属節B類の直後には、割り込みツール（感動詞類）「ああ、あ、え」が現われ、A類よりやや多くなっている。従属節C類を見ると、割り込みツール（感動詞類）「ああ、ああああ、うん、うん、え、あのう、おお」が現われ、A類とB類より多くなっている。さらに、従属節D類の直後には、割り込みツール（感動詞類）「ああ、あっ、そうそうそう、うん、うん、えっ、ねえ、いや、いやいやいや」が現れるため、割り込みが最も頻繁に起こっていると言えよう。

以上の考察から、なぜ従属節D類の直後に割り込みツール（感動詞類）が集中しているのかという疑問が生じる。それは、従属節と主節との関係、即ち従属節の独立度と関連していると考えられる。南不二男（1974）の文階層モデルでは、従属節A類は相対的に独立度が低いと設定されている。独立度が低いということは、主節と従属性の間にあまり隙間が空いていないと仮定できないだろうか。即ち、その隙間が狭いため、割り込みツール（感動詞類）が入りにくく、それゆえ割り込みが起こりにくいと考えられる。一方、B類、C類、D類となるにつれて独立度が相対

【表5】 割り込みツールの出現位置

感動詞類	連用修飾節								
	従属節 A類	従属節B類			従属節C類			従属節D類	
		す たら	す て	す ば	す から	す し	す けど	引 用 節	す か
ああ		○			○			○	
ああああ					○				
あ		○	○						
あっ								○	
そうそうそう								○	
うん					○		○		○
うん					○			○	
え				○	○				
えっ								○	
ねえ								○	
あのう						○			
おお							○		
いや								○	
いやいやいや								○	

(凡例： ○：当該の感動詞類が現れている)

的に高くなるため割り込みツール（感動詞類）が多く見られるようになる。これは、主節と従属節の間の隙間が相対的に広がっていると仮定できる。そのため、さまざまな割り込みツール（感動詞類）が入りやすく、割り込みが起こりやすいと言えよう。

以上の記述をまとめると、次のようになる。

- (33) a. 主節への独立度が低い従属節の直後では、割り込みが起こりにくい。
b. 主節への独立度が高い従属節の直後では、割り込みが起こりやすい。

このことから、より一般的には、「割り込みは、従属節の独立度に構造的に依存する」と結論付けることができる。

7. おわりに

本稿では、従属節の直後に現れる割り込みツール（感動詞類）の分布を分析した。感動詞類は感情の表出や相づちによく使用されているが、本稿の結果によると、実際の日常会話において、感動詞類は先行発話を中断させ、新たな発話の展開に使用されているため、割り込み機能を有していることが判明した。

しかし、今後の課題も残っている。本稿では、連用従属節の直後に現れる割り込みツール（感動詞類）に着目して、割り込みの特徴について分析をしたが、実際の日常会話では、接続詞など他の割り込みツールも現れている。次のデータを見てみよう。

- (34) 020439C：そろそろ20歳っていうかまあ、
020440D：[まだ19ですけど、
020441C：[あなたの場合20歳ですけど、
020442D：うん。そうだね、もう「この歳になると定着してるもんね。
020443C： 「だが」さ、子どもだったらまだ指しゃぶると
か爪噛むとかさ、子どもの癖あったと思うけど、なんだかんだ＝
020444D： うんん。
020443C： = 「言って直ってんじゃん。」
020445D： まあね。

(34) のように、020442Dの発話では、陳述副詞「もう」の直後では、Cが接続詞の「だが」を用いてDの発話を中断させている。さらに「子どもだったらまだ指しゃぶるとか爪噛むとかさ、子どもの癖あったと思うけど、なんだかんだ言って直ってんじゃん。」という新たな発話を用いて割り込んでいる。したがって、割り込みツール（接続詞）がどのように現れるのか、感動詞類と同様に独立度が高い場合に入りやすいのかなどについては、綿密に分析することが必要であろう。

また、次のデータを見てみよう。

- (35) 070624M: ああ, あああああああそうなんだ。だって今もさ, シール, シル
 ーバーがさ, もうなんか, 色, 色単調じゃん, ゆって,
 070625N: うん。 そう。
 070626M: 後はもうカバーでなんとか [してねって感じじゃん。
 070627N: [そうそう], もう大体メタリックな色でもカバー
で, 楽しみよっていう感じじゃん。
 070628M: うん, カバーないやつどうするん [やんっていう感じやね。うちの=
 070629N: [そうそう。
 070628M: =とかもうさ, 古いからさ, この機種も, カバーなんかないんだよねえ。
 070629N: え何でカバーすてたんやっけ? 捨ててはない?

(35) の070626Mの発話では、陳述副詞「なんとか」の直後で、Nが感動詞類の「そう」を2回繰り返し、いわゆる「そうそう」を用いて、Mの発話を中断させている。さらに「もう大体メタリックな色でもカバーで、楽しみよっていう感じじゃん。」という新たな発話を用いて割り込んでいる。

つまり、割り込み機能を持つ感動詞類は、従属節の直後のみならず、文の直後や句（名詞句、副詞句、形容詞句や動詞句など）の途中または直後など、日常会話の中で頻繁に現れている。このような場合に現れる感動詞類にはどのような特徴があるのかという点についても、今後の課題である。

【謝辞】

日常会話のデータ収集に長時間協力していただいた方々に、心より御礼申し上げます。また、2名の査読者から非常に有益な御指摘・御助言を賜りました。記して感謝致します。

【注】

- ¹ (1) の左側の数字については、4.2に説明してある。I, Jは発話者を表す。
² 藤井桂子 (1995: 18) は、「調和系は先行話者の発話権が維持され、かつ割り込み発話のトピックが先行発話と一致している場合である。調整系は調整系先行話者の発話権が維持されるが、トピックの方向が異なる、または一致しない場合である。独立系は先行話者の発話権が割り込み発話話者に移動する場合である。」としている。
³ Sacks, Schegloff & Jefferson (1974:703) により、ターンを構成する構成単位の終了部で話者が交替する可能性のある場所を「話者交替適切箇所 (transition-relevance place: TRP)」と呼ばれる。生駒幸子 (1996) では「TRP」という用語を用いている。

- ⁴ 筆者が収集したデータの中では割り込みが全体で384回起きているが、その中で感動詞類による割り込みは156回見られた。全体に占める割合は41%である。
⁵ 050137Iでは、割り込みが起こった直後に「…」がある。これは音声上明瞭に現れてはいるが、Iが何かを言いかけていることが観察されるため、Iの発話が中断されたものと捉えることができる。そこで、本稿ではこのような場合も「割り込み」現象が起きていると判断している。
⁶ 会話参加者IとJが同時に発話を発していることを示す。
⁷ Sacks, Schegloff & Jefferson (1974) によると、TRP (Transition Relevance Place: 移行関連場所) は、会話システムを単純化した体系的記述で、話者の交替が円滑に生じるTCU (Turn-

Construction-Unit: ターン構成単位) 内の場所を指す。しかし、実際の会話では、データ (24) のように、会話参加者C, Dのどちらがターンを取っているのか明確ではない場合が多々ある。そこで、本稿は従属節だけを対象として、全体を統一的に捉える意味で「割り込み」現象として記述することにする。

⁸ ここでは、割り込みが起こった直後のCの発話は「と思う」だけであり、しかもそこで文が完結している。そのため、これを割り込みと捉えるかどうかという問題が残されている。例えば、この位置をTRPの位置(またはTRPに近い位置)とし、そこで割り込みが起こると捉えることも可能であろう。しかし、そのように考えると、D類以外の従属節ではどうなのか、従属節以外ではどうなのか、といった問題が生じてくる。その場合、TRPの定義も再検討する必要が出てくると考えられる。本稿では、従属節に起こる「割り込み」現象を統一的に捉えるため、D類における現象として記述している。この点については、(21),(28)～(31)でも問題となるため、今後の課題として別稿に譲りたい。

【参考文献】

- 藤井桂子 (1995) 「発話の重なりについて一分類の試み」『言語文化と日本語教育』10 お茶の水女子大学日本語文化学研究会, pp.13-23
- 藤井桂子 (1998) 「会話の「割り込み」に見る男女のインターアクションスタイルの違い」『横浜国立大学留学生センター紀要』5号, pp.49-63
- 深澤のぞみ (1999) 『日本語の会話における割り込み発話に関する研究—日本語母語話者と日本語学習者の言語行動と非言語行動の観察から』金沢大学大学院社会環境科学研究科博士論文, pp.54-70
- 長谷川紀子 (2005) 「日本語学習者の割り込み会話」『日本文化論叢 第6号』千葉大学文学部日本文化学会, pp.16-31
- 林四郎 (1960) 『基本文型の研究』明治図書
- 金田純平 (2015) 「文末の感動詞・間投詞 感動詞・間投詞対照を視野に入れて」『感動詞の言語学』友定賢治編 (2015), pp.15-37
- 北原保雄 (1970) 「助動詞の相互承接についての構文論的考察」『国語学』No.83, pp.32-59
- 李孝淳 (2011) 「会話における割り込みと発話の順番取りシステムに関する一考察」『言語学論叢』オンライン版第4号, pp.1-15
(http://www.lingua.tsukuba.ac.jp/ippan/TWPL0/TWPL04_30/, 2015年4月9日アクセス)
- 三上章 (1953) 『現代語法序説—シンタクスの試み』刀江書院
- 三上章 (1955) 『現代語法新説』刀江書院
- 三上章 (1963) 『日本語の構文』刀江書院
- 南不二男 (1974) 『現代日本語の構造』くろしお出版
- 南不二男 (1993) 『現代日本語文法の輪郭』大修館書店
- 南不二男 (1997) 『現代日本語研究』三省堂
- 三尾砂 (1942) 『話し言葉の文法 (言葉遺篇)』帝國教育会出版部 (1955くろしお出版・複刊)
- 荻原稚佳子 (2002) 「日本語インタビューにおける『言いさし—割り込み』の連鎖—対人コミュニケーションの視点から—」『異文化コミュニケーション研究』第14号, pp.57-77
- Sacks, H., E. A. Schegloff and G. Jefferson (1974) A Simplest Systematics for the Organization of Turn-Taking for Conversation. Language Vol.50 (4), pp.696-735. (西阪仰訳 (2010) 「会話のための順番交替の組織—最も単純な体系的記述」『会話分析基本論集 順番交替と修復の組織』世界思想社 pp.5-153)
- 佐伯哲夫 (1960) 「現代文における語順の傾向—いわゆる補語のばあい」『言語生活』No.111, pp.56-63
- 田窪行則 (1987) 「統語構造と文脈情報」『日本語学』第16巻第5号 pp.37-48
- 田窪行則 (2010) 『日本語の構造—推論と知識管理』くろしお出版
- 友定賢治編 (2015) 『感動詞の言語学』ひつじ書房
- 渡辺実 (1953) 「叙述と陳述—述語文節の構造—」『国語学』No.13/14, pp.20-34
- 渡辺実 (1971) 『国語構文論』塙書房